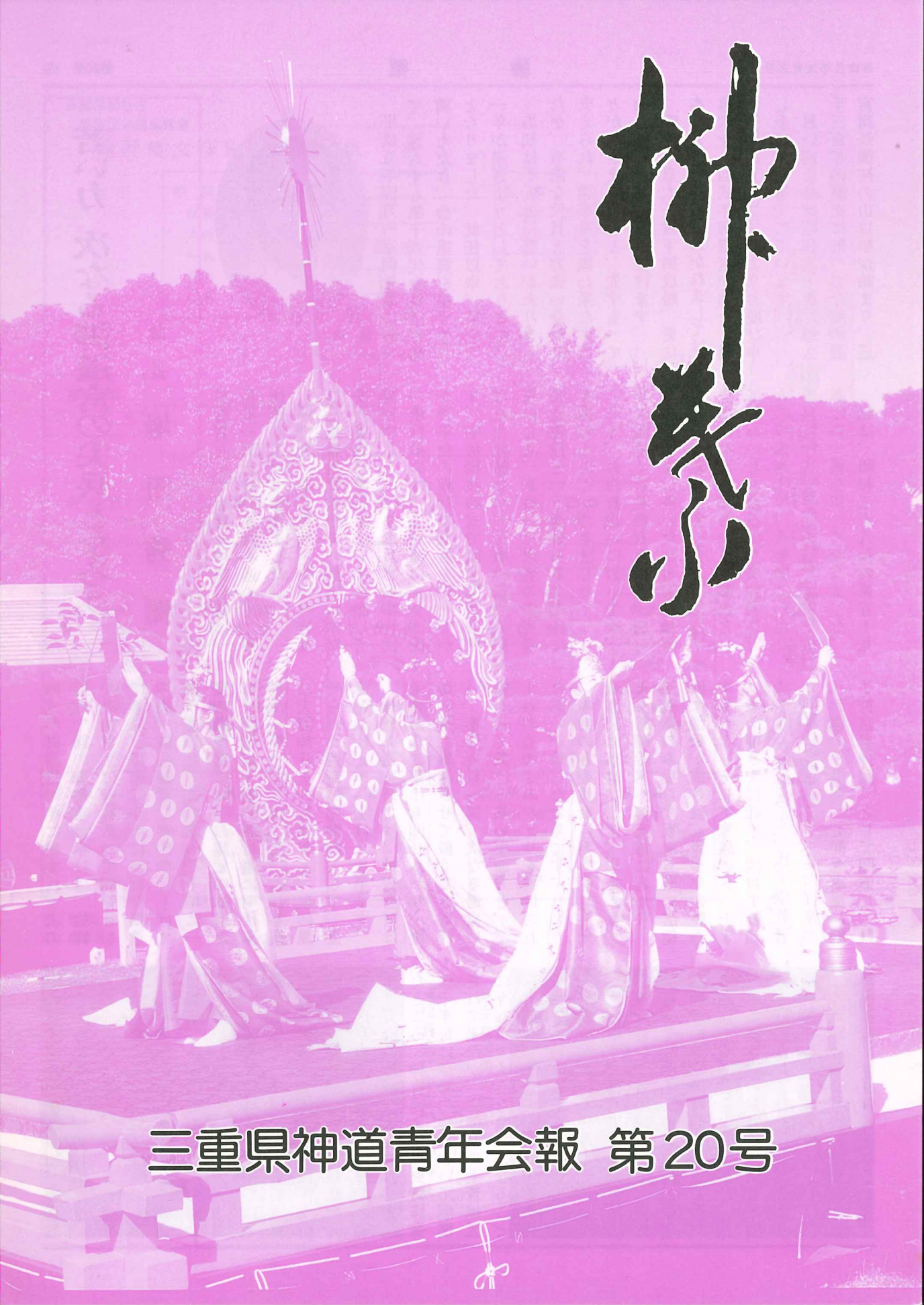


柳菟



三重県神道青年会報 第20号

平成五年度 事業報告

皇太子殿下御成婚奉祝

6月9日 巫女さんも加わり「花の種」配布



笑顔で配布する会員等(津市内にて)

各駅周辺にて花の種(コスモス・アサガオ・マリンゴールド等夏咲き種)、国旗掲揚啓蒙チラシ、伊勢神宮御参拝並びに全国育樹祭御臨席御奉迎啓蒙チラシ各千五百組を行き交う県民に配布した。

神青メンバーをはじめ、お手伝いをいただいた巫女さんたちも、白衣・袴姿での街頭活動は初めてとあって、少々恥ずかしさもあつた?…が、そこは若さと実行力で勇気を振り絞り、活発な活動を展開した。

通行人も、街頭での神主さん巫女さんたちの姿を横目に、ちよっぴり驚いた様子で戸惑いながらも、思わぬ奉祝記念の「花の種」プレゼントに喜んで、快く受け取って頂いた。

中には、「どちらのお宮さんですか」とか「どこの巫女さんですか」



巫女さんと共に(於・近鉄四日市駅)

などと気軽に声を掛け、話しかけてくる人もあり、様々な問い掛けに笑顔で(多少ひきつって)応えていた。

また、地元地区での街頭活動ということもあって、知人と出会う会員の姿も…。立ち止まり、活動の趣旨説明をする場面もあった。当日は天候も良く、夕刻の出入の多い時間ともあって、どの地区も十分ほどで配り終え、もっとも多くの人に配れなかったのが心残りであったが、意義のある奉祝活動が実施されたものと確信している。(増田 記)



会務日誌

◎平成五年

四月五日

東海五県神道連絡協議会

平成四年度定例総会

31名出席

平成三・四年度卒業式

37名出席

於・四日市プラザホテル

七日

三重県神社総代会定例総会

助勢奉仕14名 於・神宮会館

二十二日

神青協第四十五回定例総会

二十六日 第一回役員会

五月十六日 第二回役員会

二十一日

東海五県中央研修会準備委員会9名出席 於・神宮会館

六月二日

第三回役員会

新入会員歓迎会 44名参加

於・津グランドボウル・神社庁

七日

皇太子殿下御成婚奉祝行事

各支部助勢奉仕・会員多数

七月九日 第四回役員会

十二月十三日

北勢地区ブロック研修会

二十七日

東海五県神道連絡協議会

二十八日(二十九日)

お宮の自然キャンプ助勢奉仕

会員多数 於・耳常神社

八月一日(十日)

お白石持行事奉仕(内宮)

六日(七日)

氏子青年会三十周年記念大会

4名祭典奉仕

於・皇大記念講堂

十日 第五回役員会

二十二日(三十日)

お白石持行事奉仕(外宮)

二十七日

神青協「神宮研修会」準備

委員会 4名出席

於・熱田神宮会館

九月三日 第六回役員会

十日(十一日)

東海五県神道連絡協議会及び教化研修会

12名出席 於・高山市

二十八日

神青協「神宮研修会」実行委員会 3名出席

於・熱田神宮会館

二十九日

敬神婦人会連合総会助勢

博學而篤志

恒例の北勢ブロック研修会が、七月十二・十三日、多度神社参集殿と多度峡にて執り行われた。

今回の研修は、衣紋と禊ということで、松永栄木先生(城南神社宮司・神社庁祭式助教)と増田会長が道彦となり、会員十五名が参加しての大変有意義な二日間であった。

「博學而篤志」

博く学びて篤く志す。学問をするには、ひろく何事も学ぶように心がけ、学んだものは大事に心におさめ実行に移すようにしな



北勢ブロック 研修会

ればならない。神主として学ぶべきことはたくさんあるわけですが、若い時にしか得ることのできないことをひとつでも多く身につけ、いつまでも初心を忘れないようにしたい。(嵯峨井 記)

ボウリング大会



催された。

ボウリング大会では、増田会長の始球式に続きゲームが開始され、ひさびさにボウリングを楽しむ会員も多く、勘を取り戻すのにひと苦労のようすであったが、それぞれにハイスコアを狙って熱投をくりひろげていた。

ゲーム終了後、神社庁にて懇親会が催され、会長の挨拶に続き、ボウリング大会の成績発表と表彰式が行われ、楽しい夕食のひとときとともに過ごした。主な入賞者は次のとおり。

◇団体戦優勝・北勢地区

◇準優勝・南勢地区◇三位・神宮

◇個人戦優勝・松本光久会員

♥個人戦女子優勝・寺澤里恵さん

神道青年会へ新たに仲間入りした新入会員諸君には、日々緊張と失敗の連続であろうが、若い勇気と実行力を持ってこれから我々と共に手を取り合って活動し、より良い三重県神道青年会を目指してがんばってもらいたい。(大岡 記)

(大岡 記)

東海五県神道青年連絡協議会 及び教化研修会

9月10・11日



優勝を勝ち取った会員たち

久野真先生を講師にお迎えして、「土地のことは、土地のこころ」と題する講演を拝聴。先生ご自身が全国各地に赴き、事細かに調査研究された方言・風習から、その土地土地の文化・人間性について触れられ、大変興味深いお話であった。地域と密接な関係の位置にある我々であるが故に、皆熱心に聞き入っていた。

親会では、会員相互に活動情報の交換、親睦をはかるなど、和気藹藹の内に夜は更けていった。翌日は、親睦行事として、ボウリング大会が催された。昨年は見事「優勝」に輝いた三重県チームは、昨年以上の強力メンバーを揃え、他県を寄せつけず、またしても団体・個人と総合優勝を勝ち取った。

- 九月二十九日 第七回役員会 十月二日
- 第六十一回神宮式年御遷宮奉仕 24名奉仕 於・内宮 五日
- 第六十一回神宮式年御遷宮奉仕 23名奉仕 於・外宮 十五日～十六日
- 第二十二回初穂曳奉仕 二十四日
- 親子神宮参拝団 10名奉仕 十一月五日
- 三重県神社関係者大会助勢奉仕16名 於・神宮会館 第八回役員会 十八日
- 神青協「神宮研修会」実行委員会 4名出席 於・熱田神宮会館 二十四日～二十五日
- 神青協 第六十一回神宮式年御遷宮奉仕記念事業「遷宮奉祝 伊勢街道参宮キャンペーン」 二十五日
- 全国神社関係者大会助勢奉仕 十二月二日 第九回役員会 忘年会 25名参加 十二月二日
- 北勢ブロック忘年会

助勢奉仕

お宮の自然キャンプ

三重県神社庁では青少年の教化育成の為、青少年委員会が設置され各行事が執り行われているが、神社単位で活動することを目的として青少年育成モデル神社（耳常



神社・増田秀樹宮司)が指定され、八月二十八～二十九日には小学生を対象としてキャンプ(お宮の自然キャンプ)を実施した。本年度は恒例のお宮の子供会が神宮式年御遷宮に合わせて親子神宮参拝団に変更の為、お宮の自然キャンプに会員多数が助勢奉仕。正式参拝・絵馬・感謝状作成・キャンプファイヤー・バーベキュー・宝さがし・記念植樹などを行ない参加した子供達は自然にかこまれた神社の中で、有意義な二日間を過ごした。(原 記)

- 神青協「神宮研修会」実行委員会 4名出席 於・熱田神宮会館 二十四日～二十五日
- 神青協 第六十一回神宮式年御遷宮奉仕記念事業「遷宮奉祝 伊勢街道参宮キャンペーン」 二十五日
- 全国神社関係者大会助勢奉仕 十二月二日 第九回役員会 忘年会 25名参加 十二月二日
- 北勢ブロック忘年会

神青協創立45周年記念事業 11月24・25の両日 参宮キャンペーン開催



奥出副会長奉仕の修祓式

一日目は、桑名の伊勢国一の鳥居より松阪までを九区間に分けて、神青協会員七十名程が地図をたよりに決められた区間を歩き、二日目は、松阪市内三角公園より伊勢内宮まで百三十余名が揃いのハッピーに幟を手にし、各県よりの奉献品を入れたナップサックを背負って、約二十七キロを意気揚々と行進のすえ、無事内宮に到着。奉献をすませ参拝を終えた。

役員らの誓いも新たに 恒例により 年頭神宮参拝 一月二十一日、三重神青役員が宇治橋前に集合し、恒例の内宮正式参拝を行った。引き続き、猿田彦神社、そして二見興玉神社にも正式参拝。二見興玉神社にて誓いも新たに役員会を開催、この後、場所を「池の浦荘」に移し、新年会を楽しんだ。



恒例により 年頭神宮参拝

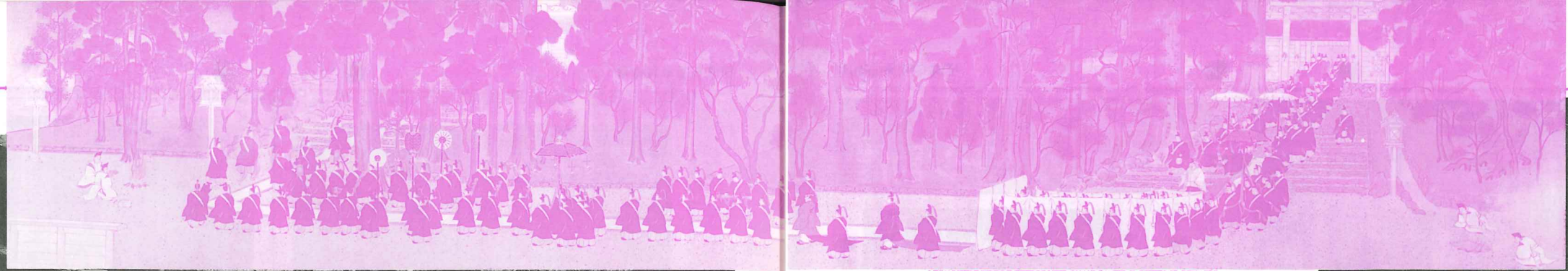
- 二十七日 金井神社神宮大麻頒布助勢 神青会員他多数奉仕
- ◎平成六年 一月十九日 神青協「神宮研修会」実行委員会 11名参加 於・神宮会館 二十一日 第十回役員会 新年会 於・池の浦荘 二十八日 神青協「神宮研修会」三重県内準備委員会 23名出席 於・神社庁 二月九日 第十一回役員会 十九日 神青協「神宮研修会」実行委員会 7名出席 於・熱田神宮会館 三月八日・九日 神青協「神宮研修会」 於・神宮会館

十一月二十四・二十五日、桑名七里の渡から伊勢内宮まで旧参宮街道を歩くキャンペーンが、神青協創立四十五周年記念事業の一環として執り行われた。

両日とも好天に恵まれた中、スタート地点にて出発式が行われ、一日目は三重神青の塚原監事、二日目は奥出副会長による修祓式の後、行進を始めたのである。

奥尻島へ御見舞 三重県神道青年会では、七月十二日に北海道南西沖地震が発生し、奥尻島では多大なる被害を受けられたので、神青会員はもとより奉職神社職

員も含めて義捐金を募りましたところ、計四十九万円の募金が寄せられました。この義捐金は、北海道神社庁宛に送金致しましたので、ここに報告いたします。ご協力ありがとうございました。



“遷御の儀”当日、早朝より神宮参集殿に参上。白衣・白袴に改服の後、綿密な打合せと現地説明を受け、正午までには万全の準備体制が整えられた。

われら三重神青会員は、礼装姿に名誉のりボンを胸に付けた全国からの特別奉拝者の奉拝席までの誘導・案内の任にあたり、赤・青・黄に識別されたプラカードを先導に、列次を整え無言で参進。予め指定された奉拝席へと手際よく何度もご案内申し上げる一方、引き続き奉拝席での奉拝者の接待や質問に答え、一同“遷御”の時を待ち、緊張の高まるなか快くご奉仕申し上げた。

また、退出誘導にあっては、感激と興奮の覚めやらない奉拝者をスムーズに帰路への交通機関まで丁重にご案内申し上げ、午後10時、全てのご奉仕を無事終えることができた。

(写真提供・神宮司庁)

- ◆ 深々と冷え込んだ月明かりのみの浄闇の中、松明の明かりと浅沓の音が近づくにつれ、自分の体に緊張感の走るのを感じた。
- 〔敢国神社 太郎館学〕
- ◆ 両宮を通してご奉仕できたことは誠に光栄であり、神宮のお膝元の神主としての自覚を新たにしました。
- 〔石部神社 館 昭房〕
- ◆ 日頃は博物館に勤めており、神道・神社について話す機会も多く、今回の奉仕の経験を生かし、神宮・遷宮の真の姿を伝えていきたい。
- 〔耳常神社 秦 昌弘〕
- ◆ 神楽歌の床しい調べの中、石階上に火灯りに映された絹垣を押しした時、御樋代木奉曳よりの来し方が顧みられ、厚みを増した自分史を感じた。
- 〔椿大神社 池田陽一〕
- ◆ 外宮遷御の儀にご奉仕させていただき、喜びと感激で一杯の一日でした。
- 〔頭之宮四方神社 向井敏通〕
- ◆ 絵巻さながらに進まれる遷御の御列を押し、奉拝席から波の様に鳴り打つ柏手の音には、多くの方々の祈りのこもった暖かさが感じられた。心から感謝申し上げます。
- 〔二見興玉神社 山本行秀〕



時が迫るにつれて深と静まりかえる奉拝席。緊張の高まる中、ここでは奉拝者の接待や質問に答えた。

平成五年十月二日、清寂なる午後八時。カケコー、カケコー、カケコーの鶏鳴三声——。一瞬奉拝者席は水を打ったように静まりかえり、浄闇の中に緊張がはしる。いよいよ出御である。まさに神話の岩戸開き……。数千人の気配すらない静けさ——やがて神楽歌とともに大御璽は御に移され、松明の灯を先頭に奉拝者の前を通り過ぎて行く。思わず手を合わすもの、柏手を打つもの、誠に荘厳・幽玄の世界。万人の祈りの中に、御は恙なく新宮に遷座しました。遷御の間かくれていた月も再び杉小立の間から微かに浄闇を照らす。今だかつて経験したことのない湧きあがる感激と興奮を熟々にご奉仕の数々を振り返ってみたい。

特集 神宮式年御遷宮

お膝元の三重神青

二十年に一度の 栄えあるご奉仕

第六十一回神宮式年御遷宮のクライマックスともいえる、遷御の儀を迎え、神宮のお膝元の三重県神道青年会は、増田会長以下役員をはじめ会員四十七名が諸々のご奉仕とともに奉拝の栄誉を賜り、生涯忘れえぬ得難い体験に恵まれた。

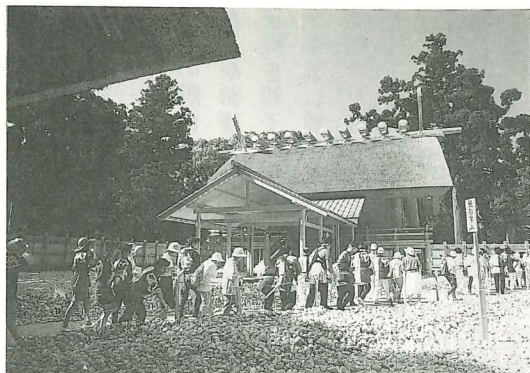
遷御の儀に臨んで

奉仕者の声

- ◆ 静寂の境にひたり緊張感の漲る中での遷御の儀は、神職の自分を自覚し、決意を新たにさせられる経験であった。
- 〔多度神社 塚原徳生〕
- ◆ 恐らく最初で最後であろう今回のご奉仕は、神職として非常に貴重な体験であると同時に、誠に有難く、誇りに思います。
- 〔花岡神社 奥出克尚〕
- ◆ 素晴らしい体験をさせていただいた御神恩に感謝しつつ、次回の御遷宮への啓蒙と、日々の神明奉仕に努力してまいります。
- 〔飛鳥神社 村尾憲一〕
- ◆ 奉拝者の柏手が波のように押し寄せた時、おのずと頭が下がりました。懐かしい心のふるさとを体感でき感無量でした。
- 〔御厨神社 菅原康知〕
- ◆ 渡御の列が近づくにつれ奉拝席は深と静まりかえり、柏手を打つ人、ひたすら手を合わせ頭を下げる人、その姿に日本の伝統を見る思いがした。
- 〔猿田彦神社 庄 武宏〕

**御遷宮に向けて——
三重神青 合同研修会**

平成三年四月、神青内に御遷宮特別委員会が設置され、神社庁・御遷宮奉賛会県本部のご協力・ご援助を戴きながら研修会や啓蒙活動を進めてきた。一方、年一回の神宮神道青年会との合同研修会では、五十鈴川での禊をはじめ、講演会等を開催。御遷宮に向けて有意義な研修を重ねてきた。



**お白石持ち行事
助勢奉仕**

御遷宮に伴う「お白石持ち行事」が平成五年七月三十一日より八月三十日まで行われ、神道青年会では神社庁からの依頼により助勢奉仕。全国からの奉仕者受入のため、午前七時から正午まで、毎日二名が参上して、受付、警備、誘導、案内等をご奉仕申し上げた。
(写真提供・神宮司庁)

三重神青 御遷宮 あれこれ



浜参宮奉仕

御遷宮にあたり新宮にお白石を敷きつめる「お白石持ち行事」は、昨年七月三十一日より八月三十日までの一ヶ月間行われ、これに併せて地元約八十団体の旧神領民、更には全国から約六万人の一日神領民の奉仕者が当神社へ浜参宮に訪れました。
冷夏にて雨が続くかと思え

又、期間中、ご参拝いただきました方には境内所狭く、いろいろと至らぬ点がありましたが、皆様方のご協力を戴きました事、誠に有難く厚く御礼申し上げます。(福田記)

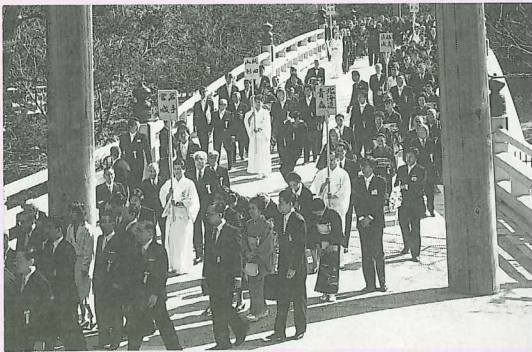
浜参宮奉仕

二見興玉神社に奉職する神青会員からの寄稿

浜参宮とは、神宮の諸行事、また重儀に奉仕する前に、二見浦にて心身、更には魂をも清め、清浄無垢な状態に立ち還ることを言う。無垢塩祓そのものは極めて簡単な儀式であるが、潔斎(みそぎ)、氣を引き締める連帯感の確認、神聖なお白石持ち行事に過ち無きようにと、誠にその奥意義は深い。
ここに二見興玉神社に奉職する神青会員から、「お白石持ち行事」に伴う浜参宮奉仕の感想が寄せられたのでご紹介したい。
御遷宮にあたり新宮にお白石を敷きつめる「お白石持ち行事」は、昨年七月三十一日より八月三十日までの一ヶ月間行われ、これに併せて地元約八十団体の旧神領民、更には全国から約六万人の一日神領民の奉仕者が当神社へ浜参宮に訪れました。
冷夏にて雨が続くかと思え

**宇治橋渡始式
奉仕**

平成元年十一月三日、雲一つない秋晴れのもと宇治橋渡始式が斎行され、山本会長以下十九名の会員が白衣・白袴にて奉仕。真新しい宇治橋六百枚の檜の渡板の上を、渡女を先頭に技師、神職、神青会員の持つ都道府県の木札に続き、各代表参列者が次々と渡っていた。



(写真提供・神宮司庁)



**御樋代木
奉迎祭**

御遷宮に向けての御樋代木は、昭和六十年六月九日三重県入り。当時の森本会長以下四十名の会員は、桑名総社また三重県護国神社にて、それぞれ奉迎祭を斎行。その後、翌朝まで会員交代で奉護し、御樋代木は無事伊勢の地へ到着した。

三重神青 御遷宮 あれこれ



**音羽ゆりかご会を迎え
イメージソング
コンサート開催**

平成三年八月九日、音羽ゆりかご会を迎え「遷宮イメージソングコンサート」を開催。夏休み中とあって会場となった録鹿市文化会館には親子連れの聴衆が詰めかけ、遷宮イメージソング『悠久』をはじめ昔懐かしい童謡など、ゆりかご会の澄んだ歌声に、一同暫し魅了されていた。

**〈夏休み体験隊〉
残暑の中、
お白石拾い**

お白石持ち行事に先立つ平成四年八月二十五日、お白石確保の一助になればと、神社庁教化委員会・青少年委員会が企画のもと、『夏休み体験隊』として「お白石拾い」を奉仕した。残暑厳しい中ではあったが、大人六十名、子供三十八名が参加。予想以上に多くのお白石が採集された。



記念事業

親子神宮参拝団開催



ゲームを楽しむ子供たち (財)修養団伊勢研修道場にて

夏休みの恒例行事として行われていた「お宮の子供会」は、本年度は神宮の式年御遷宮にあたり、二十年

一度の思い出として、天照大神さまがお遷りになられた新しい御正殿を親子で参拝して頂くこと、記念事業『親子神宮参拝団』として実施された。

参加者からの便り

親子神宮参拝団、子供も大変喜んでいました。神宮の奥まで入らせて戴けて良かったです。子供もずっと覚えていてくれると思います。もっとお友達を誘えばよかったです。

(鳥羽市 橋本清行様より) 子供達も大変喜び良い思い出が

記念事業

未来へのメッセージ!! タイムカプセル祈願絵馬

御遷宮にちなみ、わが国の文化と伝統を次代に伝えるべく、「二十年後の自分、家族、友だちに夢を託してみませんか?」をキャッチフレーズに、青少年への啓蒙推進と各神社氏子への神道教化を考慮し、夢のある事業として、『タイムカプセル祈願絵馬』の頒布を行った。

このタイムカプセル祈願絵馬は、できました。皆様のようにより、世のため人のためになれるような大人に育ってこれればと思っています。

〔志摩郡 向山明子様より〕 大変楽しく参加させて頂きました。子供たちも喜んでいました。どうもありがとうございました。

〔松阪市 石堂 訓様より〕

皆様の行き届いたお蔭に有り難く大満足して帰りました。観光とは違った重みのある一日で、子供たちも尊い経験を味わい、神様にご縁を戴きました。益々のご活躍をお祈り申し上げます。

〔度会郡 小松光代様より〕 少し寒い日でしたが、親子で楽しく過ごさせて戴きました。ありがとうございました。

〔志摩郡 上妻妙子様より〕

三重神青

神宮大麻頒布活動報告

神宮大麻頒布促進運動調査を実施して

三重県神道青年会教化研修委員会では、神宮大麻頒布促進運動の実態調査と、その調査報告の取りまとめを平成五年度の事業計画に取り入れ、この度、全国の神道青年会に調査協力を呼びかけた。

本宗と仰ぐ神宮の大麻頒布活動は、各県ごとに活発な運動・活動が展開されており、一千万家庭奉賛運動が達成されようとしている。しかし、これも各県単位で執り行われていたため、なかなかその実態が把握できない。

昨年は全国神宮大麻頒布百二十周年、また第六十一回神宮式年御遷宮が滞りなく斎行されるといって輝かしい年であった。この佳き年を機に、神宮大麻頒布活動を通じて新たな啓蒙活動の在り方を考え、一層活発な活動方針を見出し、た上で実践活動が展開できること

を目的に調査した。

将来に亘っても十分な参考と成り得る資料を作成しようと、調査報告に合わせ神宮大麻の意義及び頒布状況、また三重県内の実態なども掲載、中身の濃いものにと現在集計、編集に力を注いでいる。発行は本年七月の予定で、神青会員はもとより、県内各支部、またご協力を賜った全国の神青会に配布し、少しでも大麻頒布活動のお役に立てればと願う次第である。

新興住宅における

大麻頒布を終えて

新興住宅地での大麻頒布活動は、神社庁員弁部支部が十数年前より行っていたものを、八年ほど前より地元金井神社(種村睦宮司)が担当することとなったが、折しも土地開発の進行に伴う戸数の増加に対応が難しくなったため、神道青年会に奉仕が依頼された。しかし、神青会員の奉仕にも限



熱心に奉仕する会員等

りがあり、三年計画を立てて各年の奉仕地域を設定し、この新興住宅地を隈無く廻れるようにした。

この三重県北部の北勢地方では、大麻の頒布を「お祓いさん」と称し、大麻の奉戴に合わせ、家庭の一年間の罪穢を祓い除く「お祓い」を奉仕する習わしがあり、会員らは二人一組で各家庭を廻ったが、県内の各地区からの奉仕のため、当初は戸惑いをみせる会員の方が多かった。その上、全戸の八割近くの家庭が留守で、なかなか思うように頒布が進まず、別の時間帯に変えて再び訪問したが、白衣・白袴姿の訪問にもかかわらず、やつとの思いで大麻の説明等、お話

しのできた家庭でも、カーテン越し、インターホン越しにセールス同様冷たく断られる場合も多く、大変情けない思いもした。しかし、中には信仰熱心な家庭もあり、三年間で少ないながらも百二十件の家庭に大麻をお納めすることができたのは嬉しいことである。

第十一代会長

小林 征男氏

(世木神社宮司)

平成五年十一月二十八日帰幽されました。享年四十八。会員一同、生前の御功績に對し、敬意と感謝を表しますとともに、謹んで御霊安からんことをお祈り申し上げます。

— 会員投稿 —

御遷宮とお米

神宮宮掌 長内弘昭

総務広報委員長の長内弘昭君（神宮）より「御遷宮とお米」と題しての寄稿をいただいた。神宮無双の大宮といわれる御遷宮が滞りなく斎行された昨秋、一方では気候不順による凶作から米の輸入が叫ばれた年でもあった。米の果たす精神的役割を鑑み、よくよく考えたいものだ……。

第六十一回神宮式年遷宮は十月二日に内宮、五日には外宮において古式床しく厳肅に執り行われた。両日共天候に恵まれた遷御の儀では、全国から招かれた奉拝者が見守る中、御正殿を出た遷御の列は肅々と進み、大御神は無事新宮へお鎮まりになった。神宮式年造宮庁が発足されてから九年、多くの方々のご奉賛と斯界関係者のご協力により、御遷宮は見事に斎行されたのである。

式年遷宮は、南北朝時代まで神嘗祭の日に執り行われていた。二十年に一度、大御神の鎮まられた清々しい御正殿前に新穀が捧げられる情景は、さながら大神嘗祭といった趣だったであろう。供えられる稲は遙か神代の時代に源を発

し、天照大御神が高天原で作られていた稲を天孫瓊瓊杵命が降臨の際にお与えになり、地上にも広まったのだと記紀は伝える。古より宮廷においては新嘗祭を重要な祭りとして斎行し、また即位された天皇陛下は一世一代の祭りとして大嘗祭を執り行わせられ、その伝統は現代まで継承されている。

神宮は自給自足を基本に置き、お米は神田、野菜類は御園で神饌用として大切に栽培されている。殊に神田は、御杖代であられた倭姫命によって開かれ、下種祭から抜穂祭に至る祭儀を経て収穫される。そのお米は神嘗祭において初めて神々に供えられた後、一年間の各祭典に使われるのである。神道祭祀と密接に結びついてい

るお米も、現在は輸入問題に揺れている。自給自足できる唯一の作物とされてきたお米も限定ながら輸入されることになった。また減反政策を進めてきた中での昨年の凶作は、日本の稲作に深刻な打撃を与えた。米作りが内外から大転換を迫られつつある今日、問題は斯界の基盤にも深く関わり始めているのである。

今上陛下は、毎年皇居吹上の水田にて稲を栽培されておられる。古来より連綿と受け継がれてきた「米作り」を陛下御自ら行われているお姿を拝し、神社神道を担う我々青年神職は心を一にして祭祀の厳守に務めねばならない。そのためにも、神前へ捧げるお米だけは自給する提言をしたい。以前から神饌田運動を押し進めている県があると聞くが、この運動を全国規模に発展させ青年神職が先鞭をつける時期が来たのである。外国米が食卓に上り始めているが、せめて日本の神々に捧げる新嘗は神職の手により作られたお米でありたいではないか。それが今後の斯界を受け継ぐ全国青年神職の重要な責務であると思う。

表紙写真説明

「栄久舞」

栄久舞は第六十一回神宮式年遷宮を奉祝して作られた曲で、遷宮を寿ぐ奉祝祭の期間中、毎日の祭典に奏された神宮独特の祭祀舞。

あがめまつる 民のこころを守りませ 伊勢の大神 栄え久しく

歌詞は元神宮祭主北白川房子様の御和歌で、荘重な神楽歌に合わせ舞う姿は、誠に幽艶典雅である。

(写真提供・神宮司庁)

編集後記

今回の「榊葉」二十号は御遷宮を特集し、奉仕した感想や記念事業の記事を掲載しました。編集にご協力頂きました会員の皆さんに厚く御礼申し上げます。

「榊葉」

第20号

平成6年3月8日発行
 増田秀樹 行
 編集 総務広報委員会
 発行所 津市鳥居町210-2
 三重県神社庁内
 三重県神道青年会